

第3回 山王川多自然川づくり検討会

二級河川山王川の多自然川づくりにおいて、これまでの検討会での意見交換内容を踏まえて検討した河道の計画図（河道断面、配置計画）や法覆工（緑化対策）の考え方等について意見交換を行なった。

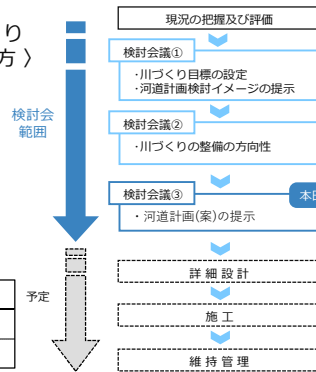
会議概要

- 日時：令和3年6月29日(火)
- 場所：美浜町役場
- 出席者：有識者、齋藤町長、美浜町
愛知県河川課
愛知県知多建設事務所

有識者：

氏名・所属	分野
吉村 伸一 氏 (吉村伸一流域計画室 代表)	河川
長谷川 明子 氏 (ビオトープ・ネットワーク中部 会長)	環境

〈多自然川づくり
検討の進め方〉



検討会の様子



検討会議での主な議題

多自然川づくりにむけた整備の主なポイント（案）

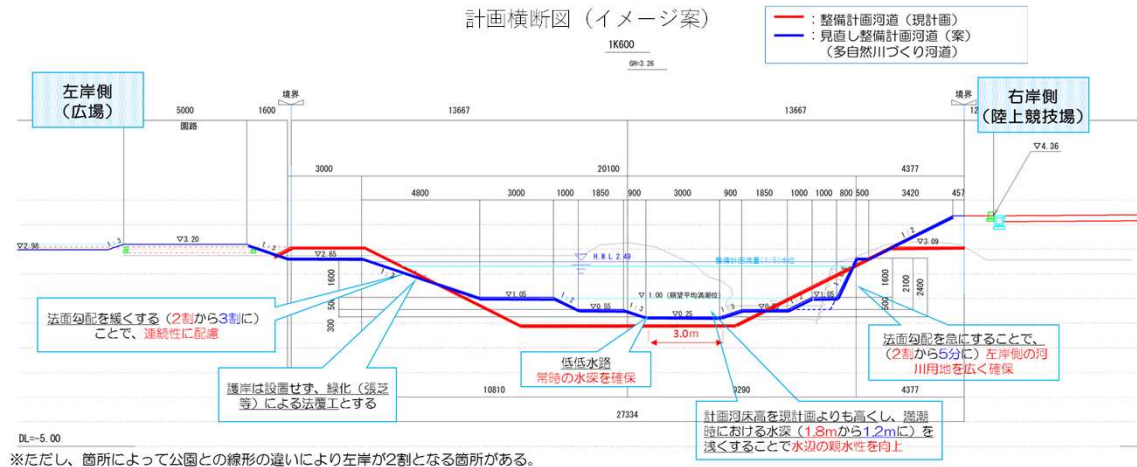
○横断計画の見直し

- ・右岸の法勾配を2割から5分に変更（急にする）することで、左岸側の河川用地を広く確保するとともに、左岸の法勾配を緩やかにして、公園から川への連続性の向上を図る。
- ・合わせて、計画河床高を現計画よりも高くし、満潮時における水深を浅くするなど、水辺への親水性をよくする。

○法覆工の考え方（緑化対策）

- ・右岸は、コンクリート護岸の前面に寄せ土等を行い、ヨシ等が生えることで、コンクリート護岸が目立たないように配慮する。
- ・左岸は、洪水時の流速を踏まえて、護岸を設置せず、張芝等による法覆工とし、将来的な遷移を考慮して、維持管理を行う。

計画横断面図（イメージ案）



※ただし、箇所によって公園との線形の違いにより左岸が2割となる箇所がある。

〈有識者からの主な意見〉

- ・法面の植生について、将来の遷移を許容することをロードマップ等で関係者と共有する必要がある。
- ・左岸については、公園を訪れた人が水際へ近づけるように草丈を維持できるとよい。
- ・右岸や橋梁部分の護岸整備に使用する材料は、自然石風に加工した製品や明度6以下のものを使用することが望ましい。